12年目をむかえる「夏鳥の初認・初鳴き調査」
～楽しみながら継続 結果をみんなで共有～

2011年に長野県内の野鳥関係市民団体の協力で始めた「夏鳥の初認・初鳴き調査」も今年で12年目。
本誌が届く頃には、すでにツバメやヒバリ、ウグイスなどが観察されはじめていると思います。

♣ 市民調査としての「夏鳥の初認・初鳴き調査」

調査は、市民の参加・協力のもとで、地球温暖化影響のモニタリング手法を検討するために始めました。また、多くの方に、生きものやかれらが棲む環境とその変化に少しでも興味・関心をもってもらいたいという気持ちも込められています。

一般に、市民調査の課題は調査精度と継続と言われています。しかし、野鳥観察はその点で3つの好条件を備えています。①精度の高い観察と記録が生活の一部となっている「生粋のバードウォッチャー」が比較的多数いること、②彼らは自分の意思で野鳥観察を継続していて、③記録の発表・共有を楽しみにしていることです。

♣ 11年間の貴重な記録

世界には、アメリカ合衆国のクリスマス・バード・カウント(CBC; 自然保護団体オーデュボン協会主催)のように、1900年から継続され、年1回(12月14日～1月5日)数万人のボランティアが全米と周辺国で野鳥を観察する市民調査もあります。これらのデータにより気候変動の自然への影響などが把握され始めています*。

CBCに比べれば規模も小さく継続期間も短い本調査ですが、11年にもわたって調査への参加者数や観察件数がほぼ同規模で継続しているのは貴重な成果です(図1)。

図1　「夏鳥の初認・初鳴き調査」観察件数の推移

♣ 身近な観察記録を積み上げる重要さ

春になると、野鳥の会のメーリングリストには、ウグイスやカッコウ、ツバメなどの夏鳥の初認・初鳴き情報が溢れます。生粋のバードウォッチャーである私(堀田)も負けじと報告します。初認一番だと思ってもすでに記録がありがっかりすることも度々。ただ、本調査のキモは、長野県で一番を競うことではなく、自分が毎日観察している自宅の周りや毎日の行きつけの場所で初めて確認したという情報を継続して記録することなのです。

♣ スマホのアプリで簡単に報告・共有

調査が佳境に入ると、位置情報の解読とマッピングで私(堀田)の1日が終わっていました。地元民にしかわからない書き方が少なくないからです。最初はそれらの情報を表にまとめ、3年目くらいからネット上の地図に落とし、参加者に見てもらいました。それを2020年からは、ArcGIS OnlineのSurvey123アプリを使用し、観察者が自分で直接データを入力する仕組みにしました(図2)。これで解読作業からは解放されました。

アプリのデータが増え始めるとわくわくし俄然やる気になります。12年目も多くの方々からの報告を楽しみにしています。

図2
「夏鳥の初認･初鳴き調査」
スマホのアプリ画面

(堀田 昌伸･陸　斉／自然環境部)

＊CBC: https://www.audubon.org/news/audubon-invites-volunteers-join-122nd-christmas-bird-count
※「夏鳥の初認・初鳴き調査」の概要や過去の情報は以下のURL(右の二次元バーコード)からご覧になれます。
https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/chosa/kenkyu/coolearth/natsudori/index.html